

(2023/04/10)

入学式 式辞

今年は春の訪れが例年より早かったようです。桜の花は皆さんの入学を待ちきれずに先週から咲き誇るほどで、本当に良い季節を迎えました。

この良き日に、令和5年度入学式を挙げることを、皆様方とともに祝福したいと思います。

ただ今、入学を許可した新入生の皆さん、入学おめでとうございます。在校生、教職員を代表して、皆さんの入学を心から歓迎いたします。

さて、皆さんがこれから学んでいく本校は、教育目標として、進取の精神に富み、国際的な視野に立って、広く社会の発展と文化の創造に貢献する、個性豊かな人間の育成を掲げ、平成6年に創立された、今年で30年目を迎える学校です。

「進取・明知・自律・協同」を校訓として、地域と連携しながらの課題解決学習を展開し、そこで得た知見を土台として、世界的な課題の解決に向かおうとする、頼もしい生徒が育っております。

新入生の皆さんは、入学後、できるだけ早い段階で本校の学びのシステムに順応するとともに、さまざまな知的な刺激を受けることで、現時点では皆さんの内に埋もれたままになっていて自分でも気づいていない可能性や能力を掘り起こしてください。そして、それらを友人たちと磨き合うことで、私たちが生活するこの社会の課題解決に立ち向かってほしいと思います。

私たちが生活するこの社会は、すぐに答えが見つかるような問題ばかりではありません。

むしろ、1つの問いに対して、2つも3つも異なる答えが存在したり、そもそも正しい答えが存在しない問いもあつたりします。

心得ておくべきことは、私たちは、答えがすぐに出ない問題ばかりの社会に生きている、ということです。

では、そのような社会でより良く生きていくためにはどうすべきでしょうか？

必要なのは、複数の視点で問題を見ることができ、幅広い教養を身につけることだと私は思います。1つの問題を様々な方向から見つめることで、その問題に立体的な奥行きが現れます。

つまり、これまで当たり前のように見てきた世界を、別の視点で捉え直すことによって、今まで想像もできなかった新たな気づきが生じ、解答のヒントが得られるかもしれないということです。

学び方についても、以前のような「ジグソーパズル型」の学びではなく、現代は「レゴブロック型」の学びが必要だ、と言われることがあります。

学び身につけた知識や技能を、パズルのワンピースとして、1つの定まったところに収めて完結させるのではなく、いろいろな形のレゴブロックとして、つないだり外したり、いろいろと組み合わせ、思いがけない形を作り上げるように、ダイナミックな知の活用をすべきだということなのだそうです。

新入生の皆さんには、ぜひ、ダイナミックで主体的な学び方を期待します。そのためのカリキュラムを本校では準備していますので、これからの3年間を遠慮せず大胆に過ごしてほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様におかれましては、重ねてご入学のお慶びを申し上げます。

本日ここに、大切なお子様がたをお迎えすることができました。私たちは、本校の教育に誇りを持ち、全力で取り組んで参ります。

学校とご家庭との風通しをよくして、お子様の成長のために一緒に取り組んで参りたいと思います。ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

保護者の皆様、そして地域の皆様方と共に、277名の生徒の、充実した高校生活を作り上げることを期し、式辞といたします。

令和5年4月10日

宮城県富谷高等学校
校長 田淵 龍二